

■ 兆候を早期に把握して、イージス艦を洋上展開させていましたが、展開には、一定の時間を必要とします。

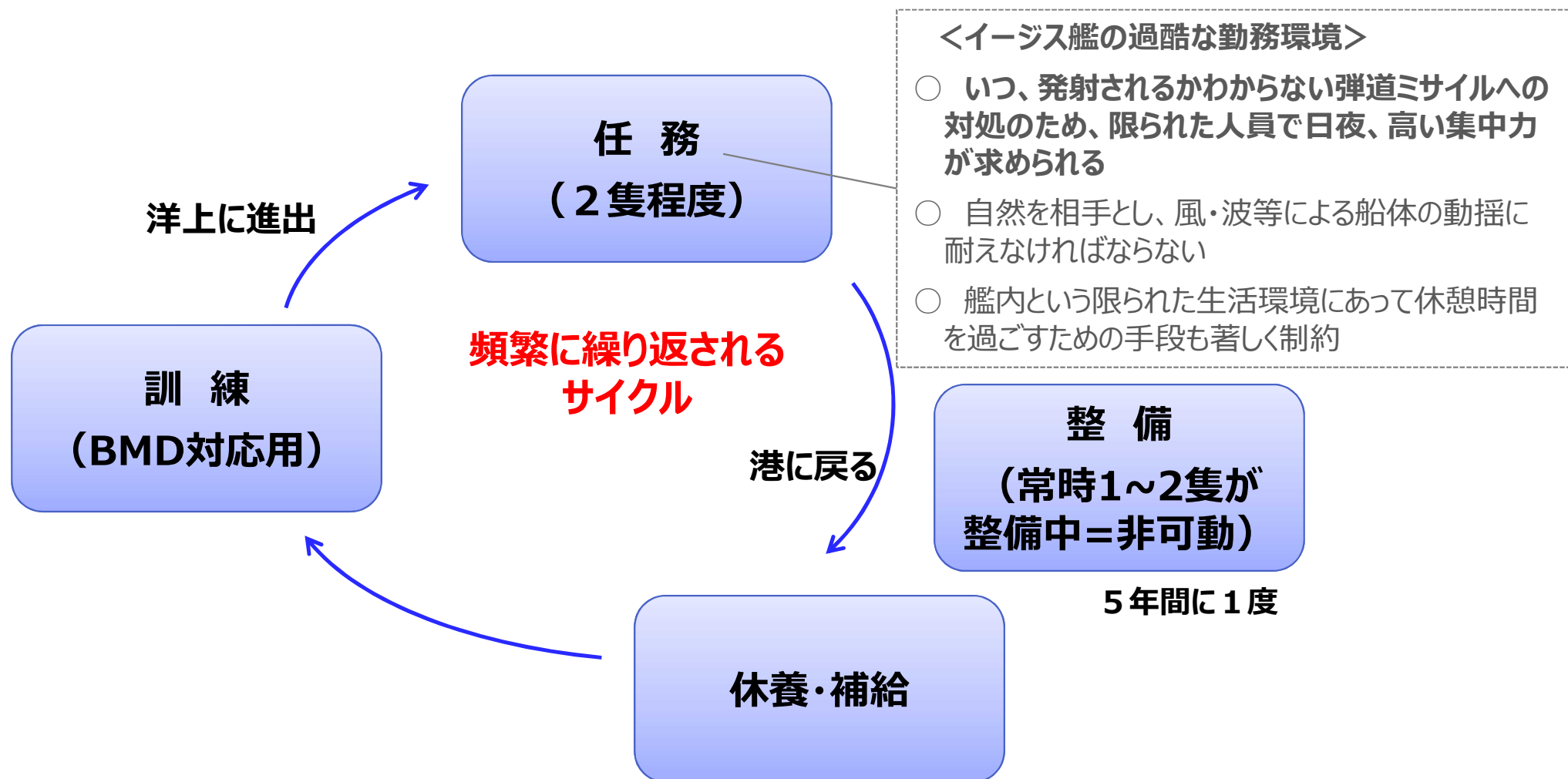
- 仮に、イージス艦が洋上展開するまでの間に弾道ミサイルが発射されれば、イージス艦での迎撃は難しくなります。
- ✓ イージス・アショアは、24時間・365日、常に、弾道ミサイルの脅威から日本全国を防護するための態勢を保つことができます。



3. イージス・アショアの必要性等

- 「BMDイージス艦8隻体制」では、1年以上の長期にわたって防護態勢をとり続けることは困難です。

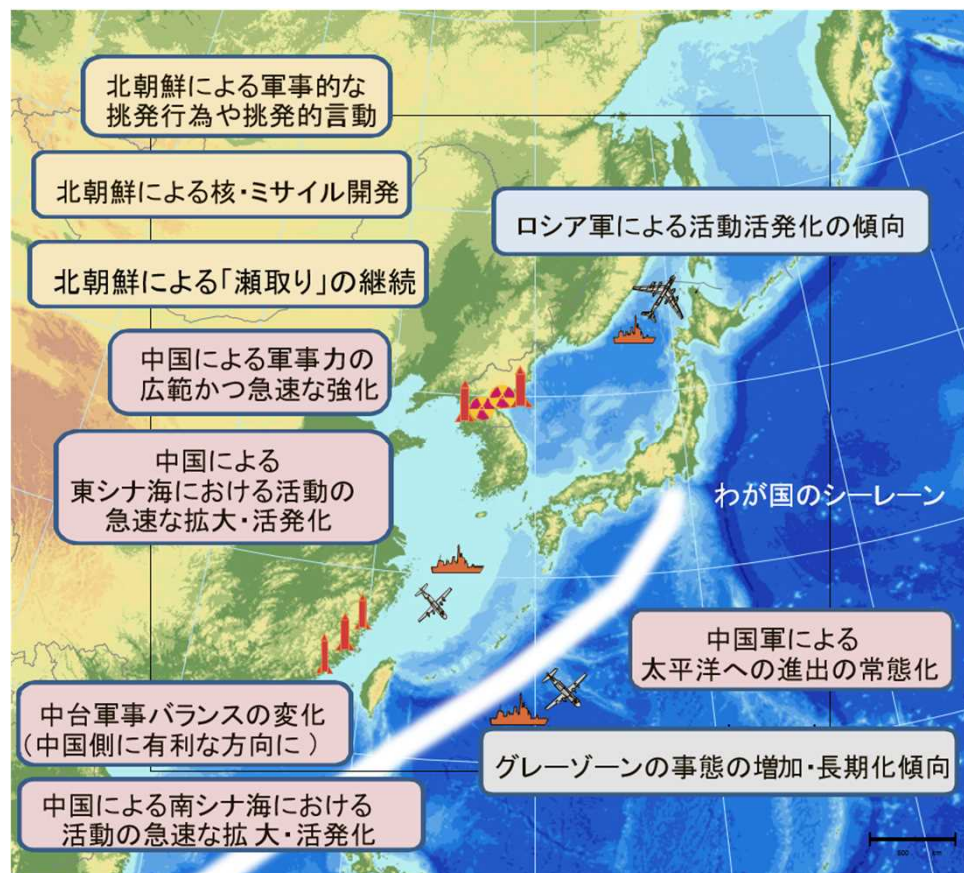
⇒ 2隻程度が洋上でBMD対応するためには、イージス艦をほぼBMD任務に専従させる形で運用せざるを得ません。



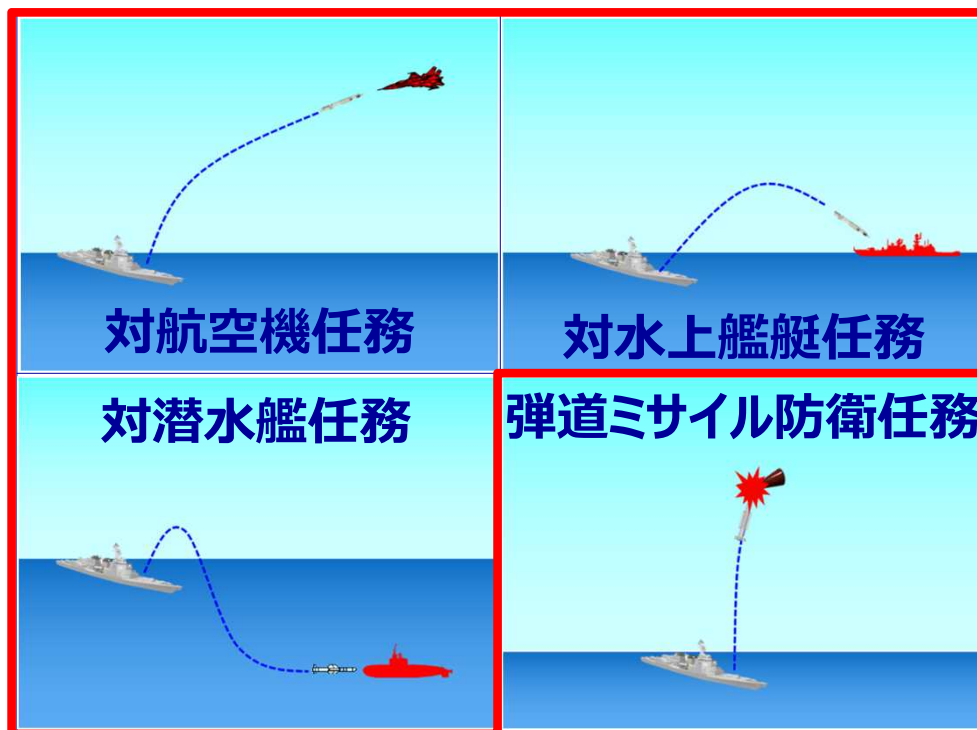
3. イージス・アショアの必要性等

- 我が国周辺において、警戒監視任務等の所要が大幅に増加しています。

⇒ イージス・アショアの導入により、イージス艦を弾道ミサイル防衛以外の任務や訓練に充てられるようになり、我が国の対処力・抑止力を一層強化することになります。



イージス艦の任務



3. イージス・アショアの必要性等

- イージス・アショアを新屋演習場とむつみ演習場に配備できれば、24時間365日、日本全域を守り続けることができます。

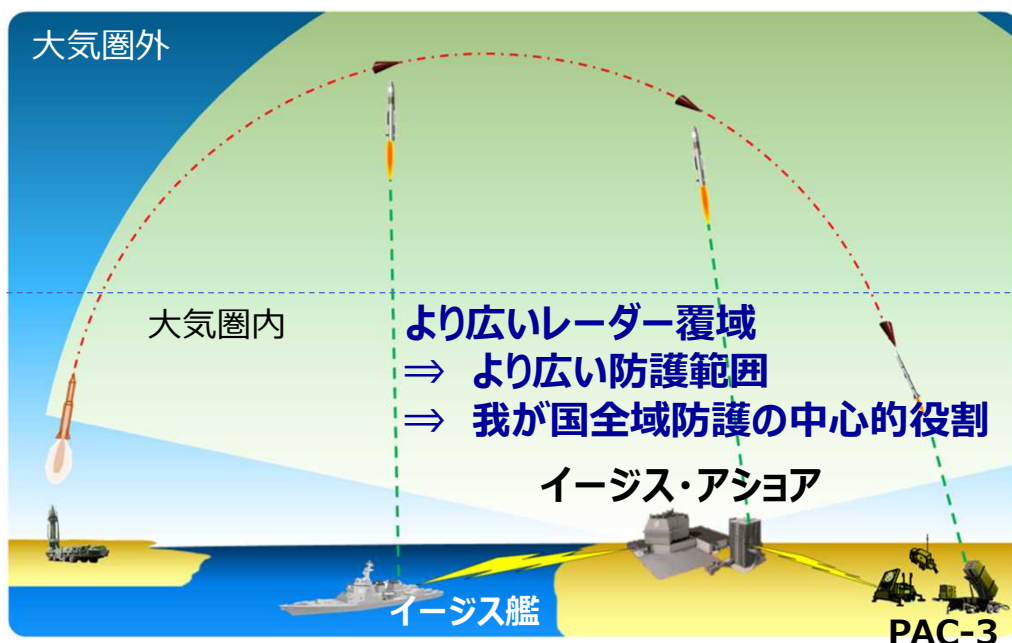
防護範囲のイメージ



3. イージス・アショアの必要性等

■ 我が国のイージス・アショアは、飽和攻撃についても、その高い性能を活かして、国民の皆様を守り抜きます。

- ✓ イージス艦よりも、非常に優れた性能を有するレーダー（LMSSR）を搭載し、探知・追尾、同時対処の能力が飛躍的に向上します。
- ✓ イージス艦は、イージス・アショアのレーダーによる情報をもとに迎撃ミサイルを発射するなど、我が国全体として、飽和攻撃に対して効率的に対処できるようになります。



北朝鮮の移動式発射装置（TEL）保有状況

区分	射程	TEL数量（両）※
スカッドER	約1,000km	最大100
ドン	約1,300km	最大50
ムスタン	約2,500~4,000km	最大50

※ 米国防省「北朝鮮の軍事及び安全保障の進展に関する年次報告」（2017年5月）による

3. イージス・アショアの必要性等

- 日本全域を防護できることに加え、できる限り早く配備すること。双方を満たすのは、新屋演習場とむつみ演習場です。

区分	年 度						
	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和2	2021 令和3	2022 令和4	2023 令和5	2024 (令和6) 以降
配備地を 変更した場合	各種調査		各種調査をもう一度実施する必要があります				
	レーダー等の設計・製造						
					用地取得をする必要があります		
				※ 用地取得後に施設整備（配備のための工事）を行うこととなります（一般的な施設整備でも3年以上が必要）。			

3. イージス・アショアの必要性等

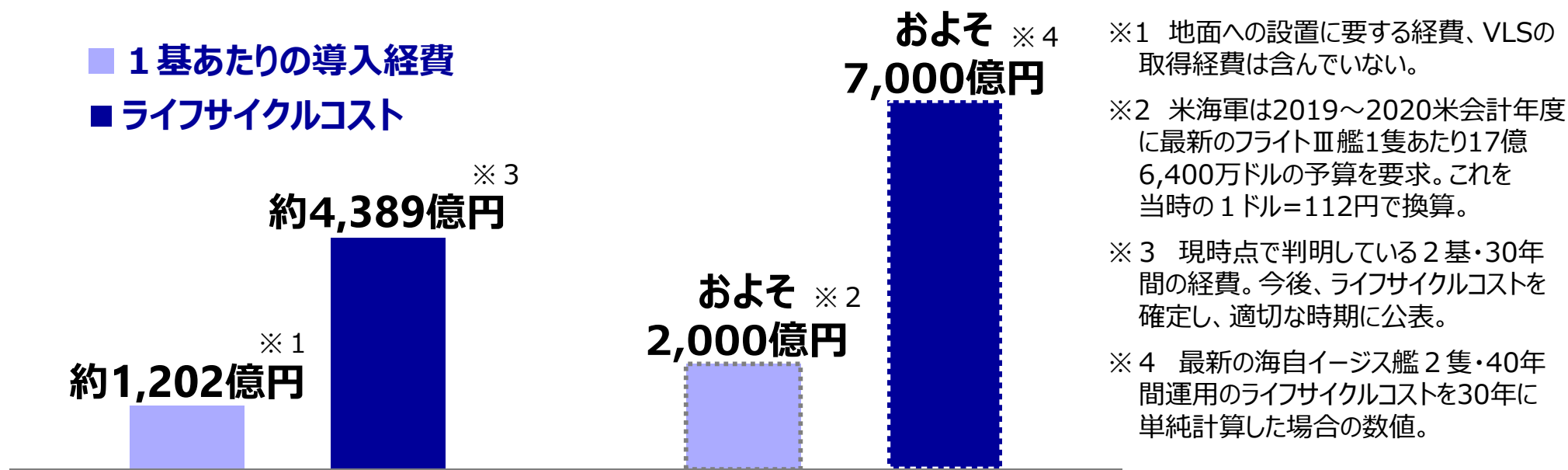
■ イージス・アショアに搭載する、迎撃ミサイルSM-3ブロックII Aは、高い性能・信頼性を有しています。

- ✓ 試験で迎撃に至らなかった当時、SM-3ブロックII Aはすべての開発プロセスを終えていたわけではなく、**改良・改善に取り組んでいる段階**にありました。
- ✓ これまでの試験で判明した、**不具合・要改善事項はすべて、完成品に反映**されています。

試験日	結果	原因	
H29.2.4	✓ 成功		
H29.6.22	▲ 安全装置が作動	ヒューマンエラー	改善済み
H30.1.31	▲ 不具合発生	点火安全装置の不具合	改善済み
H30.10.26	✓ 成功		
H30.12.11	✓ 成功		

■ イージス・アショアの導入は、イージス艦の増勢よりも費用対効果の面で優れています。

イージス・アショアは2基で24時間365日、我が国全域を常時・持続的に防護できますが、イージス艦では8隻程度は必要なうえ、それでも隙間が生じます。



※1 地面への設置に要する経費、VLSの取得経費は含んでいない。
※2 米海軍は2019～2020米会計年度に最新のフライトⅢ艦1隻あたり17億6,400万ドルの予算を要求。これを当時の1ドル=112円で換算。
※3 現時点で判明している2基・30年間の経費。今後、ライフサイクルコストを確定し、適切な時期に公表。
※4 最新の海自イージス艦2隻・40年間運用のライフサイクルコストを30年に単純計算した場合の数値。

イージス・アショア

- ✓ 24時間・365日、常に対処のための態勢を維持できる
- ✓ イージス艦をBMD以外の任務に充てることができる

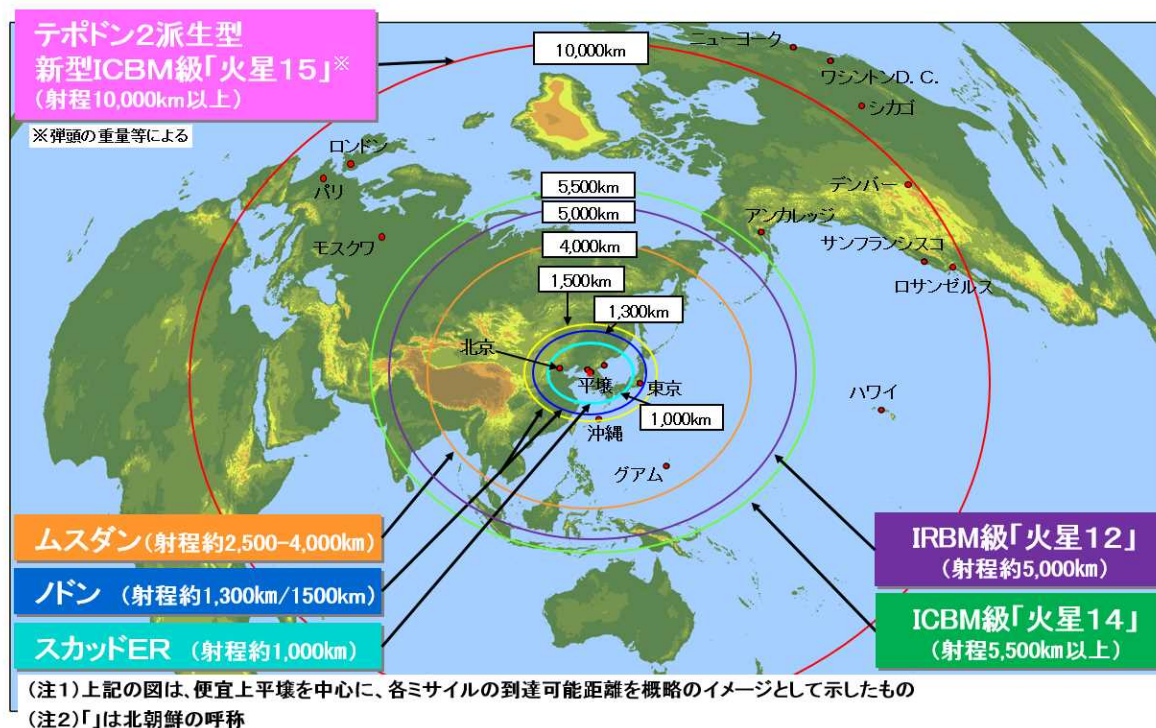
イージス艦

- ✓ 弾道ミサイル対処のほか、多様な任務に就くことができる
- ✗ BMD任務にほぼ専従。整備補給で港に戻る隙間が生じる

3. イージス・アショアの必要性等

■ 北朝鮮は、朝鮮半島の完全な非核化への意思を表明しているものの、北朝鮮の核・ミサイル能力に本質的な変化は生じていません。

1. 核兵器の小型化・弾頭化の実現に至っているとみられます
2. 我が国全域を射程に収める弾道ミサイルを数百発保有し、実戦配備しています
3. 移動式発射台（TEL）や潜水艦を用いて、我が国を奇襲的にミサイル攻撃できる能力、複数のミサイルを同時に発射する能力を引き続き保有しています



4. 結 論



- **各種調査の結果、また、住民の安心・安全を確保するための具体的な対策を踏まえると、イージス・アショアは、新屋演習場において安全に配備・運用できると考えています。**
 - ✓ **イージス・アショアのレーダー波は、周辺住民の健康に影響を与えません。**
 - ✓ **心臓ペースメーカーをはじめとする医療機器に対しても影響はありません。**
 - ✓ **秋田空港を離発着する旅客機、平素のドクターヘリ・防災ヘリの運航に対しても影響を生じさせません。**
 - ✓ **イージス・アショアだけではなく、周辺の地域を守るため万全な警備態勢を構築し、いかなる事態においても住民の皆様を守り抜きます。**

**引き続き、地元の皆様のご不安・ご懸念を払しょくし、
配備に対するご理解を得るための努力を続けてまいります。**